令和４年度第２回千葉市生涯学習審議会議事録

１　**日時**　令和４年１２月２２日（木）
　　午後１時３０分から午後３時２０分まで

２　**場所**　千葉ポートサイドタワー６階　６０１号会議室

３　**出席者**
（１）委員
　岩切　裕会長、菊池　まり副会長、伊藤　節治委員、今関　光浩委員※、
　江波戸　正子委員、岩崎　久美子委員※、鎌田　栄委員※、
　鈴木　巧委員、高橋　理枝委員、竹内　昌夫委員、萩原　博委員、
　萩原　なつ子委員※、廣﨑　典子委員、細川　芽委員※、矢澤　正隆委員
　（※オンライン参加）

（２）事務局
　佐々木　敏春生涯学習部長、中島　千恵中央図書館長、
　内海　豊生涯学習振興課長、佐久間　仁央文化財課長、
　蚊谷　友浩文化財課新博物館整備担当課長、
　土肥　慶典生涯学習振興課課長補佐、木村　隆之生涯学習振興課管理主事、
　積田　浩二生涯学習科学教育班主査、野中　智史管理班主査、
　鬼嶋　望管理班主事

４　**議題**
（１）第６次生涯学習推進計画策定について

５　**議事概要**
（１）第６次生涯学習推進計画策定について
　事務局が説明し、各委員から意見を聴いた。
　第６次生涯学習推進計画（案）について答申を受けた。

６　**会議経過**
　議事に先立ち、オンライン参加方法の説明、資料の確認、会議の公開及び議事録の承認方法、会議の成立報告、職員紹介を行った。

（１）第６次生涯学習推進計画策定について
○（岩切会長）
　皆さんこんにちは。
　今日の会議でございますけれども、計画策定に係る審議としてはこれが最後ということになります。
　どうぞ、最後までご協力よろしくお願いいたします。
　オンラインで参加されてる皆様方いらっしゃいますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

私のモニターが小さいものですから、失礼があってはいけませんので、発言される際には、お名前をおっしゃってから発言いただけると助かります。
よろしくお願いいたします。
それでは、これより議事を進めさせていただきます。
「議題１　第６次千葉市生涯学習推進計画策定について」でございます。
昨年の７月に諮問を受けてから５回目の審議会となりますが、前回で計画書（案）がほぼ固まり、審議会として教育委員会へ答申することとなりますので、本日は答申書（案）についてご審議いただきたいと思います。
まずは、前回以降、事務局が計画書（案）の中で調整した部分、委員の皆さん方のご意見をいただきましたので、それを踏まえまして、調整した部分のご報告をいただきまして、次に今回審議する答申書（案）について、事務局から説明をいただきたいと思います。
繰り返しとなりますが、これまでの議論を踏まえた形での、答申書（案）ということでございますので、この点は委員の皆様方、ご理解をいただきまして、その上で意見等をお願いしたいと思います。
それでは、まずは事務局から報告をお願いします。

○（内海生涯学習振興課長）
生涯学習振興課　内海でございます。
これまで、当審議会をはじめ、総合教育会議や、社会教育委員、教育委員等からご意見をいただき検討を進めて参りました。
長い期間にわたり、計画策定にご協力をいただきありがとうございました。
前回、成果指標を中心にご審議いただき、概ね計画書（案）が取りまとまりました。
本日は、これまでのご意見を踏まえ、庁内で調整させていただきましたのでご報告させていただき、最終的な答申を頂きたいと存じます。

まず、これまでの策定経過とこれからの予定をご説明させていただきます。
資料が前後しますが、資料１－２をお願いいたします。
この資料１－２の１７１ページをご覧ください。
「３　策定経過」でございます。
計画書（案）につきましては、昨年７月の令和３年度第１回審議会で諮問させていただき、１２月の第２回、今年３月の第３回、７月の今年度第１回審議会で多くのご意見を賜り反映させて参りました。
今回の第２回審議会では、答申書（案）を作成しましたのでご審議いただき、答申を頂きたいと存じます。
今後の予定としましては、答申をいただきましたこの計画書（案）を、同時に策定を進めている第３次千葉市学校教育推進計画と共にとりまとめ、来年２月３日から３月２日までパブリックコメントを実施し、市民意見を募集する予定です。
パブリックコメントで頂いた市民意見を取りまとめ、３月の教育委員会議で教育委員会として計画の承認を受け、公表する予定でございます。
なお、前回の審議会では１０月にパブリックコメントを実施するとご説明させていただきましたが、庁内の予算案が確定した後の２月に実施させて頂くこととなりました。

それでは、前回の審議会後、計画書（案）で変更があったところについて、主なものをご報告いたします。
まず、１３３ページをご覧ください。
「４　第６次千葉市生涯学習推進計画策定について」の「２あらたな視点」でございます。
庁内から、「公民館がどのように地域に根差した拠点となっていくのか。施策の方針等から読み取れるようにしてはどうか」との意見があり、「（４）」として「公民館が身近な地域活動拠点としての機能をより一層発揮するため、社会教育主事有資格者の更なる活用を図り、各地域における課題の解決に向けた講座の拡充を通して、その成果が地域に還元され、循環させるサイクルの構築を進め、公民館の機能強化を図ります。」を追加させていただいております。
また、この視点を推進するにあたり、１５９ページに記載しましたが、アクションプラン「Ｎｏ．６　公民館の機能強化」の中で、「相談支援体制の充実」を追加させていただいております。
次に、１３４ページをご覧ください。
「５　第６次千葉市生涯学習推進計画の全体像」でございます。
この中の「計画目標」の中で、「多様な主体と連携し合える」としていたものを、「協働」という言葉を入れた方がよいというご意見を頂きまして、「多様な主体と連携・協働を図り」に修正させていただいております。
次に、１５８ページをご覧ください。
「Ｎｏ．３　家庭教育支援事業の実施」の「＜１＞家庭教育支援チーム」について、活動をとおして仲間づくりを支援するという文言があった方がよいとのご意見をいただき、記載のとおり修正させていただいております。
次に、１６０ページをご覧ください。
「Ｎｏ．８　ＳＤＧｓの達成に寄与する学習機会の提供」の「＜２＞科学館におけるＳＤＧｓに関する事業の展開」について、科学館がこの内容にあたるのではないかとのご意見を頂き＜２＞を追加させていただいております。
最後に、全体にかかるものですが、成果指標について前回は考え方や設定する指標についてご説明させていただきご了承いただきましたが、令和３年度の実績値を現状値として、中間年度である令和９年度の目標を設定させていただいております。
目標値は、計画目標の達成に向けて、各基本施策の趣旨に沿って事業を実施するにあたり目標とする数値を設定するとともに、現在、市で策定を進めている第１次実施計画、その他の計画等や指定管理者による目標数値と整合を図っております。
現状値である令和３年度実績は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けている数値もあるため、影響を受ける前の実績値も踏まえ設定させていただいております。

また、各アクションプランについても、前回調整中となっていたものも含めて、計画の策定方針を踏まえるとともに、第１次実施計画等との整合を図り設定させていただいております。

簡単ですが、報告は以上でございます。
ご意見等ございましたら、よろしくお願いいたします。

○（岩切会長）
ありがとうございました。
ただいま事務局から、前回の審議会の委員の皆さん方からのご意見等を反映させたということでご説明ございました。
このことも含めて、今日最後でございますので、計画案をご覧になっていらっしゃった思いますので、ぜひ、ご意見、あるいは要望等がさらにございましたらお願いいたします。
ただ、先ほど申し上げましたけれども、ご発言の際はですね、大変お手数ですが、最初にお名前を名乗っていただいてからご発言をお願いいたします。

○（伊藤委員）
１６６ページの「Ｎｏ．５　地域交流・多世代交流事業の実施」についてですが、前回、私から花園にある「みんなのカフェＴＯＭＯ」の紹介をさせていただきましたが、1年経って非常に活発化してきました。子どもカフェ、子ども食堂、認知症カフェの登録もしまして、その名のとおり子どもから高齢者、若い人がたくさん集まっています。また、見学者がずいぶん増えまして、このような多世代交流の取り組みを作りたいという方々が３～４組位来ております。
その方々が１番問題視するのが、場所が無いということです。例えば公民館でできるのではないかと考えておりまして、可能ではないでしょうかという質問が１つと、さきほど相談体制という話がありましたが、そのような方々の話をよく聞いて、ぜひともそのような場として公民館を活用できるようにしていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

○（土肥生涯学習振興課長補佐）
花園公民館の子どもカフェは始めてから１年ぐらいになると思いますが、もともと花園の地域で取り組んでいただいた結果の１つだと考えております。その他、伊藤委員がおっしゃった多世代交流もアクションプランとして掲載させていただいて、公民館で取り組んでいければと考えております。
ただ、なかなかそれを継続していける人材が、公民館側も地域側も足りていないという部分もあって、いろいろな地域で進んでいかないという状況もあるかと思います。
地域で取り組んでいきたいというお話があれば、教育委員会や公民館にご相談いただいて、そういった取り組みを地域と公民館、行政が協力していければと思います。

○（伊藤委員）
１５８ページの「Ｎｏ．４　子ども読書活動の推進」についてですが、以前から、なぜ子どもだけ読書について課題を提起しているのか、大人のことも記載してはどうかと前々から思っておりまして、図書館法を勉強する機会がありまして、その第３条に図書館は図書館奉仕のため、一般公衆の希望に沿い、おおむね次に掲げる事項の実施に努めなければならない。その第６項に読書会、研究会、鑑賞

会等を主催し及びこれらの奨励を行うことと書かれています。
　行政は法律の執行機関ですので、これを実現するという非常に大事な役割があると思います。こういった読書会や研究会をもう少し取り組んではどうか、前々回も読書会について議論し、地域とのつなぎに非常に有効だという話が出ましたが、どれくらい読書会があるのでしょうか。最後なので、これを項目立てするのは難しいとは思いますが、そういう方向で検討していっていただきたいと思います。

○（中島中央図書館長）
　「子ども読書活動の推進」ですが、図書館はもちろん子どもだけではなくて、全世代の皆様に読書の場として使っていただきたいと考えております。こちらに記載させていただいているのは、今、子どもが本を読む率が下がっているという状況がございまして、子ども読書活動について記載しております。
　また、読書会についてですが、新型コロナウイルス感染症の状況もあり、実施していた市民講座を一旦休止させていただいておりましたが、最近、徐々にですが増やしているところでございます。
　室内で開催するものなので、どのように取り組んだらよいか、オンラインでの開催が可能か等も含め、検討していきたいと考えております。

○（伊藤委員）
　私、４年前に朝日ケ丘公民館図書室に相談して、職員の方が非常に協力的で、読書会を立ち上げて今に至りますが、活発で、話の場ができて非常に面白いです。
　そういうことを、全部は難しいかもしれませんが、各図書館で取り組んでいただければ地域との交流も深まるし、大人の読書の促進になると思いますのでよろしくお願いしたいと思います。

○（矢澤委員）
　今、伊藤委員がおっしゃった関連ですが、大人の読書を推進することについてです。図書館はよく企画展をやってらっしゃっていて、今回私が住んでいる緑図書館あすみが丘分館でも徳川家康の企画展が１２月から３月に開催されるということで、来年は大河ドラマも徳川家康なので、いい企画をされているなと職員の方にお話しさせていただきました。それぞれの話題、課題を色々な図書館で企画展を開催すれば、大人が興味を持って頂けて、いろいろなジャンルから読書につなげられると思います。企画展をもう少し活発に実施していただければいいなと思います。
　もう１つ、公民館の運営の件で、子ども食堂のことがありましたが、公民館を利用している方が多くいらっしゃいます。サークルの方もいるし、これから参加する方もいるし、そういう方々で、公民館の運営に関する会議を年１、２回開催していただいて、それに基づいて、子ども食堂のこととか、講座のこととか、こういう企画を実施していただけるとよいとか、そういう市民のアイディアを積極的に取り上げていただきたいと思います。
　公民館の提案だけで、公民館情報誌等を見ていくということではなく、市民も参加するというようなスタイルにもっていっていただければ、もっと公民館が地域に根差した活動ができるのではないかと思います。

○（中島中央図書館長）
図書館では大体２か月から３か月ぐらいのスパンで企画展を各図書館でやっております。
まさに、あすみが丘分館で徳川家康の企画展を実施しました。また、昨年度ですと、緑図書館で千葉氏の企画展も開催しました。その時の時節に応じた企画展、例えば６月の環境月間であれば環境に関する企画展ですとか、そのようなものを年間を通じて実施させていただいております。
今後も企画展を充実させ、皆様がその企画展を見て、本を手に取ってみようとか、まだ読んだことないものでも読んでみようと思われるような充実した企画展ができるように、年間計画を立てる等取り組んで参りたいと思います。

○（土肥生涯学習振興課長補佐）
公民館利用者が公民館の運営に携われるようにというお話でございますが、現在４７館すべての公民館で、公民館運営懇談会を設置しております。年２回程度、各公民館で懇談会を開催しており、そこには利用団体のクラブ・サークル連絡協議会の役員や、地元自治会、青少年育成委員会やＰＴＡ等の役員にご出席いただいております。いただいたご意見等を踏まえて、もっと地域や利用者の意見を取り上げながら公民館運営ができるように、改めて市の方からも各公民館へお伝えしたいと思います。

○（佐々木生涯学習部長）
少し補足申し上げます。
先ほど冒頭で社会教育主事のさらなる活用と説明させていただきました。本市としては社会教育主事を増やすということが目的ではありません。１つの手段であると考えております。
社会教育主事を今まで以上に活用し、地域の課題をしっかりとらえて、それを講座等の企画に生かしていき、その講座等に出席した人に学んでいただきたい。そして、学んだだけでなく、地域に帰って仲間づくりも含めて学習成果を還元するサイクルを作っていきたいと、次期計画を策定するにあたって、そのために公民館の一層の活発化を図っていきたいと考えております。

○（岩切会長）
ありがとうございます。公民館運営懇談会の竹内委員いかがでしょうか。

○（竹内委員）
先ほど、生涯学習振興課課長補佐からご説明がありましたとおり、運営懇談会は年２回行われておりまして、計画と実績報告という形で年２回開催されていますが、多少、メンバーが固定化してる傾向があるので、今後、積極的に新しい血を導入していくような委員構成を考えていかなければならないかと実際問題として反省としてあります。ただ、中身はかなり活発な意見交換しております。

○（岩切会長）
ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

○（萩原なつ子委員）
　社会教育主事に関することですが、先日、中央教育審議会の生涯学習部会で答申も出したところですが、社会教育主事と、今は社会教育士の双方を活用して充実させていこうという動きになってますので、今回、社会教育主事だけが記載されているので、ぜひ、令和２年からスタートしてる社会教育士という人材も計画に入れていくことによって、先ほど生涯学習部長からお話をいただきましたように社会的な課題の解決について、一層充実が図られると思います。
　もう１点、科学館や博物館のところで、ボランティアに加えて最近ではサイエンスコミュニケーターという、いわゆるプロの方ですが、一般の方々にいろいろ教えていく能力を持った人材の存在も注目されてますので、計画に入れておくと一層充実していくのではないか思いますので、ご検討いただければと思います。

○（岩切会長）
　ありがとうございます。ただいまの意見について事務局いかがでしょうか。

○（内海生涯学習振興課長）
　社会教育主事の他に、ＮＰＯや企業の中にいらっしゃる社会教育士、その方々と力を合わせて、また地域の方々にも社会教育士の方々が多くいらっしゃると思いますので、そういった方々とともに地域づくりを進めて参りたいと考えております。
　また、科学館も多くのボランティアによって支えていただいております。
　今年１０月１日に科学館のリニューアルを行いました。
　ＪＡＸＡ、千葉大学の教授や専門の方にご協力いただきまして、リニューアルを行ったところでございます。
　その方々、またボランティアの方、科学館のスタッフ、そういった方々とともに科学教育につきましても、大人から子どもまで推進できるよう図って参りたいと考えております。

○（岩切会長）
　ただいまの萩原なつ子委員からのご提案は、これから検討に入っていきますか。

○（萩原なつ子委員）
　検討というよりも、この記載の中に少し追記しておくと良いのではないかと思ったところです。ただ、ボランティアというだけではなくて、サイエンスコミュニケーター的な役割を担う方との連携という記載もあるとよいかと。
　また、社会教育主事と社会教育士というのが反復で入るようになってきているので追記したらよいのではないかと思います。

○（内海生涯学習振興課長）
　ご意見を踏まえまして、計画を修正させていただきたいと思います。

○（萩原博委員）
　加曽利貝塚博物館友の会という立場でお尋ねさせていただきます。

１６２ページにはボランティアということが記載されています。ボランティアガイドは市の公認のボランティアといってよいかと思います。市の主催で加曽利貝塚について学んだ人たちの中から希望者を募りボランティアガイドを行うという形でボランティアガイドの組織があります。毎日のように会員が出てきて活動している、皆さん熱心に加曽利貝塚が好きなんだなということが分かります。

ただ、博物館をめぐるボランティアはここに記載されているだけなのかなと、少し物足りない気がします。

友の会は公認のボランティア団体ですが、昔からの保存活動の延長からできた団体で多くの皆さんに加曽利貝塚の魅力を知っていただきたいと思い活動している団体です。この中には加曽利貝塚では縄文土器も出土しますのでそういうものを自分たちで作ってみようということを通じた加曽利貝塚の魅力づくりをやっている団体、残されている自然も貴重だということでその魅力を発信している団体、さらにそれ以外にももっと収益事業を含めたこともやっている多様な団体が集まって、その総体として加曽利貝塚を取り上げているのが実情だろうと思っています。

今、新博物館を作ろうとしていますが、開館すれば今までに比べて多くの人たちに来場してもらえるのではないか、１つの観光資源としても良いものができるということで多くの方に来ていただけるのではないかと思っています。

そうであるならばそういうことも踏まえて、加曽利貝塚の魅力を新しい形で発信しながら、周辺の沢山の人がここへ来るわけですから地域の元気を作るということも様々な意味で考えていかなければならないのではないかと思います

ここに書いてあるものでは、ボランティアガイドしかボランティアでないような印象を私は受けてしまうので、書きぶりが少し物足りないなというのが正直な気持ちです。ですので、加曽利貝塚博物館に関わるいろいろな活動をしているすべての人がボランティアであるという視点をもう少しにじませるような書きぶりにしていただけたらというのが希望です。ボランティアガイド以外の人たちにも励みになるような何らかの形で背中を押していただければもっともっとやる気が出てきて、結果として地域に波及して活力あるコミュニティづくりにつながると思いますので、ご検討いただけたらと思っています。

○（佐久間文化財課長）

博物館法も改正されまして、生涯学習施設という観点だけではなくて、文化施設としての観点、さらに地域活性化にも資するような施設となるようにということが、今般改正された博物館法に謳われておりますので、博物館運営の中では今おっしゃったような博物館そのものにご協力を頂くボランティア団体の他に、様々な市民活動団体にお力添えをいただきながら運営をしていくのは、当然のことと思います。

計画に記載をしているのは、市が行う生涯学習の推進の中で博物館の事業そのものにお力添えを頂く人材を発掘して、育成していくという観点でございますので、博物館そのもののボランティアに限った記載をさせていただいております。もちろん、それぞれの事業については、自立的に活動されてる方からお力添えをいただかないということではございませんので、ご理解いただければと思います。

○（萩原博委員）
　そのとおりかもしれませんが、我々は行政の下請け仕事をしているという意識もないのです。加曽利貝塚が好きだからボランティアとして関わっている。ただ、加曽利貝塚自体を所管しているのは教育委員会なので、どこかでわれわれの立場を認めて頂くような、位置づけがあるとさらにやる気が出てくるのではないかと思います。
　この計画の中で記載するのが難しいということであれば、可能なところに働きかけていくようにしていただけたらと思います。

○（岩切会長）
　事務局からは何かありますでしょうか。
　ボランティア全般に関わることですね。
　ここの記載をもう少し修正してほしいということではないのでしょうか。

○（萩原博委員）
　そうですね。
　それぞれ所管の中で書かれていることなので、それを踏み出して記載するということは行政として難しいということは分かるので。
　所管があるのかどうかは分かりませんが。

○（佐久間文化財課長）
　計画書（案）の１３６ページに、計画の目標を「新しい時代の市民の学びを支え、生活や地域・社会に生かし、多様な主体と連携・協働を図り・・・」としている中で、「多様な主体との連携・協働」というのが謳われております。
　博物館がこれから直接的に養成していこうという事業について、先ほどのボランティアの育成ということで記載しており、すでに自立し、博物館の手を直接借りることなく自立的に活動している団体とはもちろん協働していくという前提ですので、博物館としてはボランティアを育成していくというポイントを絞った形で記載をさせていただいております。
　自立して活動している団体に対して、市が育成をするというのは市民活動、ＮＰＯに対して逆におこがましいかと思いますので、ご理解を頂ければと思います。

○（萩原博委員）
　１３６ページに確かに書かれています。
　それでいいじゃないかというのもありますが、これだけ書かれていて、後ろの部分の書きぶりが少し寂しいと感じます。
　それぞれのボランティアは自立して活動していて、それぞれに事情を抱えながら活動していて、すべてうまくいっているかというと必ずしもそうとも言えないところもあります。しかし、先を見ながら考えれば、もっとボランティア・市民力で加曽利貝塚を押し上げていかなければいけない、もう一度、世界遺産登録に押し上げたいとの思いもある中で、まだまだ推進力が足りないと思うので、その推進力となるような、動きを後押ししていくような記載があると、大変、力になるのではないかなということで申し上げています。

○（岩切会長）
　お気持ちが非常によく伝わってきます。多様な主体と連携・協働を図るという、この審議会の中で出て、そして計画目標の修正も図ったところでございます。
　ご指摘の点は、おそらく市全体に関わる問題になってくると思うので、この計画においては修正ということではなくてよろしいですか。

○（萩原博委員）
　はい。これはこれで結構です。

○（伊藤委員）
　今の話に少し関連しますが、１３６ページの一番下の図に千葉市の生涯学習を支える連携・協働イメージがあります。前から少し疑問なのですが、家庭は入っているのですが、ボランティアや有識者というような、地域にいる有識者は結構いまして、個人ベースでここに入れた方がいいのではないかと思います。
　団体とか、家庭だけではなく、個人ベースのボランティアとか有識者の活用を図るのは地域の活性化になると思いますので入れたらどうかと思います。
　それから、もう一点、先ほど生涯学習部長が、学習の成果を地域に還元するというようなサイクルを作っていくというような非常に力強い言葉をおっしゃっていて、非常にいいことだと思います。そういう視点で１５８ページを見てみますと「子育てママのおしゃべりタイム」の文末で子育ての仲間づくりを支援しますとなっています。
　ところが、同じページの「高齢化社会に対応した学習機会の提供」を見ますと、機会を提供しますで終わっているものですから、ここも循環の、「支援する」という言葉を入れた方が、より市の姿勢がはっきり出てよいのではないかと思います。
　この２点いかがでしょうか。

○（岩切会長）
　今の、連携・協働のイメージの所のご指摘と、「提供」「支援」の部分のご意見がありましたが、事務局いかがでしょうか。

○（内海生涯学習振興課長）
　確かに、伊藤委員のおっしゃる通り、連携・協働について団体だけではないということで、「ボランティア」、「有識者」と個人も入れていくような形に修正させていただきたいと思います。
　また、子育ての部分について「支援」の言葉があるのに対して、高齢者の部分については「機会の提供」にとどまっているというご指摘がありましたので、そちらの方も「支援」という言葉を入れていきたいと思います。

○（岩切会長）
　よろしいですか。他の委員はいかがですか。

○（高橋委員）
　１つ質問と１つコメントです。

コメントについては、さきほど大人の読書活動推進の話が出ましたので、それに関連してです。読書だけではなく、１５４ページのＮｏ．６にレファレンスサービスの充実というのがありますが、調べ物や調査は生涯学習の中では重要になってくるかと思います。大きなデータベース等は個人で購読するというのは高額で難しいものになりますので、職場等をとおしてそういうものにアクセスできる方は良いかと思いますが、そうでない方にとって図書館は調べものや調査において非常に大きな役割を果たすと思いますので、ぜひこの点を読書活動の推進に加えて充実していただけたらと思います。

質問については、成果指標の令和３年度の現状値と令和９年度の中間目標にだいぶ開きがある指標と、比較的開きが少ない指標があるかと思いますが、最初のご説明の時に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大がリアルで訪問する方が減っていたような項目はそれ以前の状況を加味して目標値を設定されているというお話でしたので、開きの大きいところはコロナの影響を受けた数値、開きの少ないところは影響が少なかった数値なのかと思いましたが、そういった理解で正しいかどうかを教えていただけたらと思います。１つひとつの指標のご説明ということではありません。

○（中島中央図書館長）

「レファレンスサービスの充実」に関しましては、おっしゃられたように、オンラインのデータベース等も活用しながら、今後も引き続きサービスに努めて参りたいと考えております。

○（土肥生涯学習振興課長補佐）

各成果指標の現状値と中間目標数値の差についてですが、今、おっしゃっていただいたように、数字の差が大きいものについては、コロナの影響で令和３年度の現状値が通常時よりも低い数値になっているけれども、令和９年度はコロナの影響がないとみなしてどのぐらい伸びるかという数値を出しており、そこで差が開いているように見えるものでございます。

逆に数値の差が少ないところにつきましては、まず１つは、コロナの影響をそれほど受けていなかったという場合もありますし、コロナとは直接関係無く、本来であれば令和元年度、令和２年度の実績を見るとこの数値よりはもっと低い数値となるところ、令和３年度の現状値が通常よりも何らかの理由によって、大きくなっている項目があり、そのイレギュラー要因を除いて令和元年度や令和２年度の数値をベースに目標数値を設定すると、令和９年度の目標はこの程度になるという指標があり、それが数値の差の幅が狭く見えている部分ではないかかと思います。

○（岩切会長）

今回の計画書（案）で成果指標が出そろいまして、前回までは具体的な数値が出ていないものがかなり多かったですが、今回、具体的な数値が出ております。私も事前に拝見していて同じ印象を持ちました。市民の方も同じ疑問を持たれるかなと思います。５年後の中間目標達成へのハードルがかなり高いものと低いものが混在しているので、そういう印象を持たれる市民も多いかと思います。これからパブリックコメント手続きもあると、そういうご意見もたくさん出ると思い

ますので、説得力のある数値にしていただきたいと思います。指標ですので、これで決定しているわけでもないので、そのような疑問に答えられるものにしていただければと思います。

○（土肥生涯学習振興課長補佐）
　ご意見を頂きましたので、再度精査できる指標については精査させていただきたいと思います。

○（廣﨑委員）
　前回、欠席させていただいたので、先ほどお話しいただいた現状値と中間目標がなぜこんなに違うのか疑問に思っていたのですが、先ほどの説明でわかりました。ただ、このまま出されると市民としては疑問に思う可能性が高いと思いますので、検討していただければと思います。
　もう１つ、数字に関しての質問ですが、１２４ページの「千葉市生涯学習基礎調査概要」があります。人数的には出ていますが、年代的にはどの年代がどのくらいというのはわかりますでしょうか。

○（土肥生涯学習振興課長補佐）
　調査の細かい数字を今、持ち合わせていませんので、後ほど提供させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○（矢澤委員）
　１６４ページに「学習を生かした活力あるコミュニティづくり」があり、その中で、さきほど生涯学習部長からお話があったとおり、市民の参加・協働による学習成果の活用を推進していくということですが、「市民自主企画講座受講者数」のところで、生涯学習センターがこのような講座を実施しているということで、それはもちろん評価に値するのですが、公民館でもそういう市民自主企画講座を募集するとか、それに対する参加を募るとか、そういうことをやっていったらどうなのでしょうか。やはり市民活動、あるいは市民団体、あるいは市民講座を運営している方々がいらっしゃるので、公民館でもぜひ募集して地域への還元を図っていただきたいというのが１つです。
　また、１４４ページに「子どもの居場所づくりの推進」とあるのですが、公民館の役割として地域の居場所づくりも大きな役割だと思います。地域の居場所づくりについての項目がないようですが、その推進が１つの項目としてあってもよいはないかと思います。

○（土肥生涯学習振興課長補佐）
　まず、市民自主企画講座についてですが、まさに今、おっしゃっていただいた通り、生涯学習センターでは実施できていますが、公民館ではまだなかなかそこまで実施できていない状況ですので、今後生涯学習センターで実施してるノウハウを公民館と共有しながら、取り組みの検討を進めていきたいと思います。
　続きまして地域の居場所についてですが、当然、公民館は子どもだけではなく、多世代の居場所という位置づけになっています。この計画の中には、確かにこういった記載をしているのが子どもの居場所の部分だけになっておりますが、当然、

どの世代の方々にも居場所の問題等あると思います。千葉市では今、子どもの居場所ついて、なかなか確保できていないというところが大きなテーマになっていると、教育委員会としても考えているところでございます。そのため、子どもの居場所については項目出しをさせていただいたという状況でございます。

○（矢澤委員）
千葉市は高齢化が非常に進んでいます。特に周辺部に関しては顕著になってきていると思います。６５歳が定年になってきて、特に男性ですけど、私の家の周辺の方々、ほとんど閉じこもっていらっしゃるか、もちろんサークルをやっていらっしゃる方もいらっしゃるかと思いますが、やはり公民館、図書館に地域の居場所を提供してもらう努力をしていただいた方が、病気にもなりにくいですし、健康推進にも良い方向になると思いますので、ぜひ項目に入れていただきたいと思います。他の若い世代の方もいますが、やはり子どもと高齢者、これが並べるものだと思いますので、ぜひご検討いただきたいと思います。

○（土肥生涯学習振興課長補佐）
今、おっしゃっていただいたご意見、重要なことだと感じております。
ただ、今回、ここに項目をこれから追加するのが難しいかもしれませんが、今後検討させていただけたらと思います。

○（矢澤委員）
今後でも結構です。ぜひご検討ください。

○（土肥生涯学習振興課長補佐）
高齢者の居場所、特に公民館の場合は、健康に関する講座や体操教室等の形で社会教育、生涯学習の取り組みの役割になってくると思っておりますので、そのような形をとおして、高齢者の皆様の居場所づくりの取り組みを進めていきたいと思います。

○（佐々木生涯学習部長）
先ほど、子どもの居場所について、特筆をさせていただいたと申し上げさせていただきました。
ご存知のように来年度、子ども家庭庁が設置される中で、子どもの居場所が新たに定義されると、そういった意味においても特筆をさせていただきました。
今回、どこでも子どもカフェ、プレーパーク、先ほど花園公民館でもどこでも子どもカフェの実施についてありましたが、その部分は引き続き拡充していきたいと思います。公民館は高齢者だけではなく、新たな人たちの居場所ということで、今回は子どもについて記載いたしました。
当然ながら、高齢者の方、今まで利用されてる方の視点を忘れているというわけではなく、今後、多世代交流という形で地域に根差した施設になるために、高齢者オンリー、あるいは子どもオンリーという形でなく、子どもたちにとってもいいですし、高齢者の皆様にとっても子どもたちが来ることによっていいと、そういう相乗効果があると考えています。
もちろん、大人、高齢者の方の居場所という視点は、決して忘れることなく、

今回これから追記はできませんが、非常に重要な視点ですので、今後しっかりと取り組んでいきたいと考えております。

○（廣﨑委員）
多世代交流ということで、すばらしいと思いますが、千葉市全体を考えると、高齢者のサービス施設って結構あり、いきいきプラザやいきいきセンターがそれにあたると思います。そこと公民館の役割が、どのように違うのかが私自身がわかっていないのですが、そういういろいろな施設の活用があるので、入ってこないのだろうと、私は感じ取りました。

○（矢澤委員）
高齢者福祉と生涯学習は若干違うと思います。
高齢者福祉はあくまでも福祉に対することなので、生涯学習はその前の段階の福祉に頼らない、自己の研鑽をするのが生涯学習の大きな役割だと思いますので、その辺は分けて考えるのが１つの方法かと思います。

○（竹内委員）
先ほどのご質問の中で、子どもの居場所についてありましたが、幕張公民館の例で申し上げますと、これまでクラブ・サークルで公民館の多くを使っていたのですが、そこを数年前から、１部屋完全に子どものために学習室を作って、そこに、小学生や中学生、高校生、上は大学や予備校に行っているような方も来ていて、自由に勉強しています。これは生涯学習部長からもお話がありましたが、前から公民館というのは年寄りだけではなくて、若年層をいかにしてくみ上げるのか、それを融合して初めて公民館の役割を果たせるだろうと。そのようなことから、学習室を、多くの公民館でやっているかどうかはわかりませんが数年前から実施しています。子どもも雨の日も風の日でも来て、一人で勉強している。これはいいなと感じています。
もう１つは、年寄りの意見を訊いて、それに見合ったような形で運営していくと、これは非常に難しいところもあるかと思います。公民館の職員の方は積極的にこれから必要と思われることはありませんかと、かなり声をかけて調査をしている感じです。しかし、こういう講座をやりますよというと、そこに手を挙げる人はいますが、利用者からの提案が難しい部分もあります。別の機関で公民館に情報提供があって、こういう講座を実施すると高齢者のためになりますよというようなテーマづくりのようなことができればよろしいかと。職員の方は結構一生懸命やっているのですが、なかなか情報、それに見合ったような講座ができていないというような悩みがあるのではないかと思っています。

○（岩崎委員）
わかりやすく、よくまとめられていると思います。感想です。
私は、１３３ページ、１５９ページのところを修正していただいて、公民館の機能強化と、特に社会教育主事有資格者の更なる活用を入れたことというのは、とても良くて、公民館に魂を入れることで、職員の質の保証とか専門性に言及された、千葉市教育委員会の見識を高く評価したいと思っております。
先ほど、社会教育主事と社会教育士を併記するというご提案がありましたが、

とても細かいことですが、社会教育主事有資格者で、社会教育主事一部講習の移行措置で、まだ社会教育士の称号を有していない方々が多いと思われます。そういう人たちを、この答申では活用しようという話なので、その人達が排除されないような形になってほしいと思います。そちらの方が人数的にも非常に多いですし、人事発令されている社会教育主事の方々と対比的に、そのプールを使うということだと思いますので、有資格者の言葉を残しておいて欲しいと思いました。

千葉市でほぼ中学校区に１つ公民館があり、かつ非常に財政工夫で施設整備が進んでいるということは、やはり地域の資源としてとても誇るべきところであると思います。

ぜひ、他の自治体に先駆けた地域課題解決のモデル的な取り組みやイノベーティブな活用の方策を、検討していただいて千葉市ならではのものを打ち出して欲しいと思っています。

もう１点だけお話しさせてください。

先ほど、読書活動の推進は子どもだけではなく、大人も対象とすべきとの委員のご指摘がありました。私もこの計画を見ていて、子どもは学校教育、大人は生涯学習という二分化するような、物の見方をするのではなくてやはり１人の人間が学習を通じて成長していくという視点に立って、子どもも大人も学習する主体として学校教育と生涯学習との間をシームレスに移行できるような目標を視点として、入れて欲しく思っています。

今回の答申は、第３次千葉市学校教育推進計画と第６次千葉市生涯学習推進計画の整合ということが掲げられております。

例えば２ページに、過去の平成２１年度の千葉市の教育目標は、「自ら考え、自ら学び、自ら行動できる力をはぐくむ」ということが書かれていますが、これは成人教育論からすれば大人の学習者の理想とされるモデルです。ですから、子ども、大人と区分するのではなく、今後の運用ということになると思いますが、学校教育と生涯学習が断絶してるような印象にならないように工夫していただきたく思います。

○（土肥生涯学習振興課長補佐）

頂きましたご意見の社会教育主事資格者につきましては、先ほど社会教育士のお話もございましたが、社会教育主事有資格者の記載については、このまま残したいと思っております。

次に、学校教育推進計画との整合性等につきましては、学校教育部と連携を取りながら、学校教育と生涯学習の断絶ということにはならないよう進めていきたいと思います。

○（岩切会長）

オンライン参加の他の委員の方々、他にございませんでしょうか。

○（今関委員）

先ほど竹内委員からありました、公民館の学習室のところで、中学校の立場で少し発言させていただきます。

令和５年度から令和７年の間に部活動の地域移行ということがあり、令和８年度から完全実施という形になっていますが、休日の活動が地域に移行されていく

と、その中で保護者の負担等があるいうことで、若干部活動離れが心配されます。
　そのような状況で、地域で小中学生も含めて自習できるような環境があるのは、とてもありがたいなということで、この計画に文言は入れなくても構いませんが、そういった視点もあるということで、ご承知おきください。

○（細川委員）
　先ほど図書館のオンラインデータベースを中央図書館でというような記載があって、ご意見ありましたけれども、データベースをオンラインということですので、もし契約できるようでしたら、分館でもそのデータベースをオンラインで入れるような形で進めていただいて、もちろん中央図書館が最初にサービスを始めると思いますが、Ｗｉ－Ｆｉ等も含めて、分館もなるべく中央図書館と格差がなく、サービスできるようにしていただければと思います。

○（中島中央図書館長）
　まだ、千葉市の図書館でオンラインのデータベースが導入されていないという状況でございますので、今いただいたご意見を踏まえながら、まずは中央図書館で、オンラインデータベースの導入を検討し、その後、その他の図書館にも、広げていけるかどうかも含め、研究しながら進めていきたいと思っております。

○（岩切会長）
　それでは、最後にしたいと思いますが、計画について何かございますか。オンライン参加の委員もよろしいでしょうか。
　よろしいようですので、計画書（案）についてのご意見はここまでにしたいと思います。
　続いて、答申書（案）に移りたいと思います。
　事務局より説明をお願いします。

○（内海生涯学習振興課長）
　つづきまして、答申書（案）についてご説明いたします。
　資料が戻りますが、資料１－１をお願いいたします。

　答申は生涯学習審議会から教育委員会へ頂く形になります。
　答申書は、計画期間、基本方針等をまとめた物と、計画書（案）の２点で構成いたします。標題は「第６次千葉市生涯学習推進計画について（答申）」です。
　記載内容についてご説明いたします。
　なお、事前送付いたしました物から、検討・調整の結果一部追記しました。
　第６次千葉市生涯学習推進計画について、別紙のとおり当審議会の意見を取りまとめましたので答申いたします。
　なお、答申にあたり、下記のとおり意見を付すこととします。
　１　生涯学習に関する情報が充実していると感じる市民の割合が低く、必要な情報が十分に伝わっているとは言い難い状況にあることから、特にインターネットやＳＮＳを活用した情報発信の充実に努められたい。
　２　生涯学習施設は市民の学びの拠点であることから、十分な保守・保全に努められるとともに、早急に老朽化への対策を講じられたい。また、複数

施設の複合化にあたっては、それぞれの特色を生かした連携ができる施設となるよう努められたい。

３　地域課題や現代的課題の解決に関し、生涯学習が大きな役割を担っており、学びの成果が地域に還元できる循環サイクルが構築されるよう、必要な人材の発掘や育成、主催講座及び相談体制の充実に努められたい。

追記箇所は、今ご説明させていただいた「３」の文末です。「相談体制の充実」を加えました。

以上が、答申書（案）の１枚目となり、別紙として計画書（案）を併せて答申書となります。

付記している意見については、これまでの審議会で各委員から計画を進めるにあたり留意すべき点として頂いたご意見を取りまとめたものでございます。

説明は以上でございます。

よろしくお願いいたします。

○（岩切会長）

具体的な内容は計画書（案）に取り込まれておりますので、答申の鑑となりますが、ここで３点ほど意見を付しておりますけれども、これに修正、あるいは、加える、削除する、ということも可能でございます。委員の皆さんからご意見をいただければと思います。

オンライン参加の皆様も、どうぞご意見ありましたらお願いいたします。

○（矢澤委員）

「１」、「２」、「３」と非常に皆さんのご意見が取りまとめられていますが、順番に意味があるのでしょうか。「１」の「必要な情報が十分に伝わっているとは言い難い状況にあることから、特にインターネットやＳＮＳを活用した情報発信の充実に努められたい。」と、ここが最も力を入れているように見えるのですが、これもあるのですが、「２」、「３」も非常に重要なことだと思います。これを最初に持ってくるよりも、３番目ぐらいで妥当ではないかと。「２」、「３」の方に優位性があるのではないかと思います。皆さんのご意見をお聞きできればと思います。

○（岩切会長）

ただ今のご意見について、皆さん何かご意見ございますか。

事務局はございますか。

○（土肥生涯学習振興課長補佐）

この「１」、「２」、「３」の順番ですが、資料１－２計画書（案）の１３２ページ、「４　第６次千葉市生涯学習推進計画策定について」の「１　第６次千葉市生涯学習推進計画策定の基本方針」で、「（１）第５次千葉市生涯学習推進計画の課題への対応」の「イ　生涯学習の推進にかかる課題」のところで、（ア）が情報提供について、（イ）が施設等の環境の充実、（ウ）が多様な学習機会の充実となっています。「１」が学びのきっかけづくり、「２」が学習をしていく上での環境づくり、「３」が学習の成果を地域に還元するということで、１３６ページに記載している循環サイクルの図の順番に合わせております。

○（矢澤委員）
伊藤委員はどのようなご意見でしょうか。

○（伊藤委員）
わたしも、「３」、「２」、「１」と思いました。
「１」、「２」は手段で、「３」が今回の計画で最も力を入れているものだと思います。

○（矢澤委員）
私も、「１」は最後ではないかと思いました。「３」を最も優位に持ってくるべきかと思います。

○（岩切会長）
体系に沿って揃えているという説明でしたが。

○（矢澤委員）
今回、答申ですので、やはり計画書（案）の記載の順番というよりも、私たちの意見を出すわけですよね。私たちの意見で最も重要だとしているものが一番重要視されるわけで、インターネット、ＳＮＳというのは、主題ではないと私は感じています。伊藤委員がおっしゃったような「３」、「２」、「１」の順番の方が私たちの意見に沿うと思いますが。私だけの個人の意見でしたらご容赦ください。

○（岩切会長）
他の委員のご意見も伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。
ございませんか。
考え方としては、両方あるかと思います。
私個人的には、この原案の並びがいいように思ったのですが、私が決めるわけでもありませんので。
私がそう思った理由というのが、情報発信の充実というのは非常に重要だと考えています。この審議会でも意見が出ましたが、単なる方策と捉えるよりも、千葉市の生涯学習を市民の皆様になかなかご理解頂けていないと感じています。これだけの計画や施策をご理解頂くということが、まずは必要なのではないかと思い、私はこれまでの審議会を踏まえて異論はなかったのですが。
今のご意見を受けて、事務局はいかがでしょうか。

○（佐々木生涯学習部長）
この順番についてですが、どちらに視点に置くかということをおっしゃられているのだと思います。
これら「１」「２」「３」それぞれ重要でございます。順番が変わったからといって問題があるということはありませんが、当初、事務局の方から申し上げた形のものとしていただけるかどうかでございます。ただ、矢沢委員さんおっしゃったように、委員の皆様の総意の上で、これは「３」「２」「１」が良いという形であればよいですが、会長からのご意見もあり、事務局としてはこの順番で考えているというところでございます。

そのような形でご理解をいただければと思っております。

○（萩原博委員）
皆さんがおっしゃるように、「１」「２」「３」で重要な順に並んでいるわけでは無いかと思います。だだ、見た感じ「１」「２」「３」の順で、それぞれ該当する施策を当てはめていくと、実現するハードルが低い順に並んでいるなというのは感じます。ハードルが高い方から並べていった方がよいのか、低い方から並べていった方がよいのか、それだけの問題だと思いますので、低い方から並んでいた方が受け取りやすいかなと感じています。

○（佐々木生涯学習部長）
萩原委員もおっしゃっていましたが、どちらも大事です。この「３」というのは、公民館を今までとは違う新たな視点でとらえたものと考えております。「３」が全体を網羅するといった意味合いで、こういう順番にさせていただいたところでございます。

○（矢澤委員）
わかりました。こちらで結構でございます。

○（岩切会長）
よろしいですか。
順番はつけがたい、すべて重要な内容ですので。
それでは、他にこういう内容を付け加えたらというご意見はありますか。
オンライン参加の方もいかがですか。
大丈夫ですか。
それでは、事務局からの提案していただいたこの内容で答申といたします。
ありがとうございます。

審議もここでひと段落したわけですが、このあと、パブリックコメントでの市民の方々のご意見も踏まえて、教育委員会会議で承認を受け、来年度からこの新たな計画で千葉市の生涯学習施策の充実を図っていただけたらと思います。
委員の皆様には、長い間、貴重なご意見をたくさんいただきありがとうございました。

本日は、委員全員お揃いでございます。
審議全体を通しての感想でも結構でございます。
鈴木委員いかがでしょうか。

○（鈴木委員）
小学校で校長をやらせていただいていますが、図書館、科学館、加曽利貝塚、公民館もそうですし、いろいろな生涯学習施設を利用させていただいております。子ども達が休みの日、家にこもってゲームしたりしていることが多いのですが、そういったところで日ごろから助かっている部分が多いです。
私、理科教育の推進をやらせていただいていますが、「科学都市ちば」という

のが、最近少し薄れてきているなと感じています。加曽利貝塚もあり、郷土博物館もあり、千葉氏もあり、科学館のリニューアルもひと段落し、少しそのように感じたので、学校の方でも、科学教育を推進していきたいと思っておりますので、今後ともご協力いただければと思っております。

○（岩切会長）
江波戸委員いかがでしょうか。

○（江波戸委員）
私は、保護者の立場でＰＴＡの代表として参加させていただいております。
近所の公民館で色々企画をしてくださっていて、夏休みに子どもとよく参加させていただいております。よく、子ども達の夏休みの課題に直結した企画をしていただいていて、とてもありがたく思っています。
また、審議会に出席しまして、いろいろな立場の方のご意見を聞いて、子ども達のためにいろいろな視点で考えていただいて、このように皆さんの意見で教育委員会に話が行って市にも行くのかなと、この場で自分自身も勉強になって、とてもいい機会をいただいたと思っております。

○（岩切会長）
オンライン参加の鎌田委員いかがでしょうか。

○（鎌田委員）
私の任期が途中からでしたので、皆さんいろいろご議論いただいてありがとうございました。
私の立場からはキャリア教育ということで、今人生１００歳時代と言われ、マルチステージということで、今までの考え方ではない多様なステージを考えていかなければいけないということであります。そういったことを取り入れたキャリア教育が行われることを期待したいと思います。

○（岩切会長）
それでは、菊地副会長いかがでしょうか。

○（菊池副会長）
いろいろな立場から、特に「つどい、学び、つながる」というようなことが随所に毎回の会議で話し合われて、これは公民館だけではなくて、いろいろな場で大事なことなんだろうと思うので、皆でそれ確かめ合いながら、計画を実際に推進していくときに、役立ていきたいと思いました。
１つ質問ですが、答申ができて、これからパブリックコメント手続きがあって、そこから色々な意見が出てきた時、その後どのように進んでいくのかというところがわからないので、教えていただきたいです。

○（土肥生涯学習振興課長補佐）
この後、パブリックコメント手続きで、市民の皆様のご意見頂くことになります。頂いたご意見と、その回答を、例えば計画書（案）のここに記載があります

といった回答をさせていただいたり、いただいたご意見を計画に反映したりということになります。また、ご意見やその回答内容を、皆様が見られる形で公開させていただいて、それを経て最終的に計画が固まり、来年度から第３次千葉市学校教育推進計画・第６次千葉市生涯学習推進計画をスタートしていくという流れになります。

○（岩切会長）

私も、最後ですので一言感想を申し上げさせていただきます。

本当に皆さんありがとうございました。

無事、答申ができ非常に安堵しています。

コロナ禍の中の会議で本当にどうなることかと思いましたけれども、本日もオンラインで会議を開催していますが、今後このような会議の形が一般的になっていくのであろうと思いながら進めておりました。

先ほどもお話ありましたが、千葉市の社会教育、生涯学習の柱になってるのは公民館で、非常に素晴らしいものだということを聞いております。

こういう公民館を中心とした、施策展開がかなり印象に残っております。

ぜひ、最終的にいい第６次千葉市生涯学習推進計画になって欲しいと思います。

それに、長期間、事務局の方には、本当に私どもが、いろいろなことを申し上げました。それぞれ、難しい点も多かったと思いますが、その都度、委員の皆さん方の意見が反映されているかと、常にチェックをしながら、進めて参りましたが、今皆さん方もお気づきかと思いますが、非常によく、皆様方のご意見が反映された修正ができて、その都度加わっておりまして、事務局の方の精力的な取り組みは頭が下がったところでございます。

本当にありがとうございました。

私の方の力不足で進め方も反省するところも多いですが、何とか勤めを幾らか果たせたかなと思っております。

本当に長い期間ご協力いただきましてありがとうございました。

それでは、本日の議事の方はこれで終了したいと思います。

進行を事務局にお返しします。

議事後、事務局からの事務連絡を行った。

問い合せ先　千葉市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課
電　　話　０４３－２４５－５９５３
ファックス　０４３－２４５－５９９２
電子メール　shogaigakushu.EDL@city.chiba.lg.jp